

心不全の再入院を防ぐための 新しいサポートが始まります

心不全は、退院後も継続したケアがとても大切な病気です。

当院では2026年6月より、急性期病院を退院された心不全の患者さんを対象に、再入院を防ぐための継続的な管理サポートを行う体制を整えました。

心不全の再入院予防に必要なこと

日本において心疾患による死亡はがんに次いで2番目に多い原因です。心疾患のなかで心不全によるものが最多で、今後さらに高齢化が進むことで心不全患者数が増加することが想定されており、2030年には130万人になると考えられています。

心不全における入院中死亡率は9.1%、入院後1年以内の死亡率は約20%と高率です。また、1年以内に約4人に1人（24～29%）の割合で再入院がみられます。

心不全では入退院を繰り返すたびに心機能の低下がみられ、認知機能やQOLも低下し要介護状態となることが懸念されます。そのため、心不全の再入院を予防することはとても重要です。

再入院を防ぐためには、看護師・管理栄養士など多職種によるサポートが欠かせません。また、心臓を専門とする内科医が全身状態をしっかりと把握し、お薬の調整を行うことも重要です。

当院の取り組み・連携体制

当院は心臓を専門とするクリニックとして、安城更生病院と連携しながら、心不全の再入院を防ぐための継続的な医療を提供する体制を整えています。退院後も「チームで支える」安心のサポートをお届けします。

こんな方は、ぜひ一度ご相談ください

心不全で入院したことがある方

現在、他院で心不全の治療を受けている方

いまの状態を中長期的に安定させるために、

一緒に治療を見直してみませんか。